

事業所名 プロッサムジュニア 新産栗原教室

支援プログラム

作成日

2026年

2月

28日

法人(事業所)理念	えがいておでかせる、ひとりひとりの「できるよこび」							
支援方針	【個別と小集団のバランス良い療育】を提供します。 個別療育プログラム・お子さまの個性や保護者さまのニーズをすり合わせ、オーダーメイドの個別プログラムを作成します。お子さまのやりたい心を大切にして「できた！うれしい！」を積み重ね、言語でのコミュニケーションにつなげます。 集団療育プログラム・小集団の中で社会性やより良いコミュニケーションスキルを身につけられるようになります。日常生活動作の獲得や生活リズムの形成、五感を使った自然体験と振り返りによる強化を大切にします。							
営業時間	9時	30分	17時	0分まで	送迎実施の有無	あり	なし	
	ねらい	支援内容		具体的な活動や支援内容				
本人支援	健康・生活	(a) 健康状態の維持・改善 (b) 生活のリズムや生活習慣の形成 (c) 基本的な生活スキルの獲得	(a) 健康状態の把握 健康な心と体を育て自ら健康で安全な生活を作り出すことを支援する。また、健康状態の常なるチェックと必要な対応策を行なう。その際、意思表示が困難であるお子さまの障害の特性及び発達の過程・特性等に配慮し、小さなサインから心身の異変に気づけるよう、きめ細かな観察を行う。 (b) 健康の増進 食事、排泄等の基本的な生活のリズムを身に付けられるよう支援する。また、健康な生活の基本となる食を営む力の育成に努めるとともに、楽しく食事ができるように、口腔内機能・感覚等に配慮しながら、咀嚼・嚥下、姿勢保持、自衛と関係する学習を行なう。さらに、病気の予防や安全への配慮を行う。 (c) リハビリテーションの実施 日常生活や社会生活を認めるよう、それぞれのお子さまに適した身体的、精神的、社会的訓練を行う。 (d) 基本的な生活スキルの獲得 身の回りを清潔にし、食事、衣類の着脱、排泄等の生活に必要な基本的技能を獲得できるように支援する。 (e) 構造化等により生活環境を整える 生活の中で、さまざまな遊びを通して学習できるように環境を整える。また、障害の特性に配慮し、時間や空間を本人に分かりやすく構造化する。		未所帯に体調測定を行い、健康状態を確認します。 毎朝の会では、時間の経過を目的とした日ごとの、曜日、天気の確認、ビジョントレーニングや言語の明確化を目的とした口の体操を行い、見通しを持って活動できるように一日の予定を確認します。 一日を通して、日常生活に必要なスキル(食事、排泄、着替えなど)の習得を支援し、教室の目標に慣れ、生活リズムを整えます。(作業療法士が、姿勢や動作の改善に関するアドバイスを行います。)			
	運動・感覚	(a) 姿勢と運動・動作の向上 (b) 姿勢と運動・動作の補助的手段の活用 (c) 保有する感覚の総合的な活用	(a) 姿勢と運動・動作の基本的技能の向上 日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化を図る。 (b) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用 姿勢の保持や各種の運動・動作が困難な場合、姿勢保持装置や、様々な補助用具等の補助的手段を活用してこれらができるように支援する。 (c) 身体移動能力の向上 自力での身体移動や歩行、歩行器や車いすによる移動など、日常生活に必要な移動能力の向上のための支援を行う。 (d) 保有する感覚の活用 保持する視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分に活用できるように、遊び等を通して支援する。 (e) 感覚の補助及び代行手段の活用 保持する感覚器官を用いて状況を把握しやすくなるよう眼鏡や補聴器等の各種の補助機器を活用できるように支援する。 (f) 感覚の特性(感覚の過敏や鈍麻)への対応 感覚や認知の特性(感覚の過敏や鈍麻)を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等の支援を行う。		体操などを通して、日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動能力の向上を目指す。サーキットやバランスボールなどを用いて、体操を意図した運動遊びを通して筋力、持久力、柔軟性などの運動能力を高めます。ゆっくりとした動きなど意識をつけることで、意識して取り組んだり、集中力の維持を意図して、楽しく取り組めるよう支援を行います。 音楽療育担当の職員が弾くピアノの音に合わせて、リズムに合わせて体を動かしたり、音を聞き分けたりする活動を通して、聴くことや聴いて理解する力と体のコントロールができるよう促します。			
	認知・行動	(a) 認知の発達と行動の習得 (b) 空間・時間、数等の概念形成の習得 (c) 気候や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得	(a) 感覚や認知の活用 視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分に活用して、必要な情報を収集して認知機能の発達を促す支援を行う。 (b) 知覚から行動への認知過程の発達 環境から情報を取得し、そこから必要なメッセージを選択し、行動につなげるという一連の認知過程の発達を支援する。 (c) 認知や行動の手段からなる概念の形成 物の機能や性質、形、色、匂いなどから、空間・時間等の概念の形成を図ることによって、それを認知や行動の手段かりとして活用できるように支援する。 (d) 数量、大小、色等の獲得 数量、形の大きさ、量、色の違い等の習得のための支援を行う。 (e) 認知の偏りへの対応 認知の特性を踏まえ、自分に入ってくる情報を適切に処理できるように支援し、認知の偏り等の個々の特性に配慮する。また、こだわりや偏食等に対する支援を行う。 (f) 行動障害への予防及び対応 感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防、及び適切な行動への対応の支援を行う。		季節の行事を通して料理をしてお友達と楽しく食べる経験、地域のお店にお友達と一緒に買い物に行くことで、お金の使い方や計算、時間の管理などを学びます。 小集団や個別療育にて、ボールプールや新聞遊び、小麦粉粘土遊びや指先を使う知育玩具などで感覚を刺激し、興味を伸ばします。			
	言語コミュニケーション	(a) 言語の形成と活用 (b) 言語の受容及び発出 (c) コミュニケーションの基礎的能力の向上 (d) コミュニケーション手段の選択と活用	(a) 言語の形成と活用 具体的な単語や文脈と言葉の意味を結びつける等により、体系的な言語の習得、自発的な発声を促す支援を行う。 (b) 表意言語と表出言語の支援 話し言葉や各種の文字・記号等を用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し、表出する支援を行う。 (c) 人とのかかわりによるコミュニケーション能力の獲得 個々に配慮された場面における人との相互作用を通して、共同注意の獲得等を含めたコミュニケーション能力の向上のための支援を行う。 (d) 指差し、身振り、サイン等の活用 指差し、身振り、サイン等を用いて、環境の理解と意思の伝達ができるよう支援する。 (e) 読み書き能力の向上のための支援 発達障害のお子さまで、障害の特性に応じた読み書き能力の向上のための支援を行う。 (f) コミュニケーション機能の活用 各種の文字・記号、絵カード、機器等のコミュニケーション手段を適切に選択、活用し、環境の理解と意思の伝達が円滑にできるように支援する。		言語で相手に伝え、言語でのコミュニケーションの心地よさ、受け入れられる安心感を感じられるようにします。 呼吸のコントロールをすることで発声を促し、口の体操や口腔内を動かす体験を通して、発音の明確化に取り組みます。個別療育にて、自分の気持ちやサインなどで自分の気持ちを表現したり、指導員が聞き取り、文章化する経験を通じ、文章で相手に伝えられるようしていきます。			
	人間関係社会性	(a) 他者との関わり(人間関係)の形成 (b) 自己の理解と行動の調整 (c) 仲間つくりと集団への参加	(a) アタッチメント(愛着行動)の形成 人とのかかわりを築き、身近な人と親密な関係を築き、その信頼関係を基盤として、周囲の人と安定した関係を形成するための支援を行う。 (b) 積極的な関わり 遊び等を通じて人の動きを観察することにより、社会性や対人関係の芽生えを支援する。 (c) 感覚運動遊びから身体認知への支援 感覚機能を使った遊びや運動能力を高める遊びから、見立て遊びやつもり遊び、ごっこ遊び等の象徴遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。 (d) 一人遊びから集団遊びへの支援 周囲に子どもがいても無視して一人遊びの状態から並行遊びを行い、大人が介入して行う連合的な遊び、役割分担したりルールを守って遊ぶ共同遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。 (e) 自己の理解とコントロールのための支援 大人を介して自分のできごと、できないことなど、自分の行動の特徴を理解するとともに、気持ちや行動の調整ができるように支援する。 (f) 集団への参加への支援 集団に参加するための手順やルールを理解し、遊びや集団活動に参加できるように支援する。		小集団の活動の中で、グループでの協力やコミュニケーションを促す活動を通じて、他者との関わりや協力の重要性を学び、社会的スキルを育てます。 好きな遊びを繰り返し体験することで、他者と関わる楽しさ、繰り返し遊びたい希望を相手に伝えて受け入れてもらう経験を通して、人との信頼関係を構築します。			
家族支援	・個別療育や集団療育にて行った活動の内容を送迎時(お迎え時)や、写真付きでサービス提供記録にてご伝えます。 ・6ヶ月に1回程度、モニタリングとは別で面談の機会を設け、保護者に共有していきます。 ・個別療育の観察の機会を作り、保護者に対して支援のポイントや関わり方のフィードバックを行います。		移行支援	・必要に応じて学校(園)に訪問し、児童との関わり方について情報共有、支援方針を計画します。 ・療育所での様子を他事業所や相談支援に対し、訪問、電話等で伝え、日々の様子の情報交換を行います。 ・学校(保育園・幼稚園)への送迎時、先生と学校(園)での様子や事業所での過ごし方の情報共有を行います。				
地域支援・地域連携	・関係機関で役割分担し、情報を共有を行います。 ・連携会議を定期的に開催し、情報収集・役割分担に関して協議します。 ・各関係機関の情報を基に、具体的な場面での関わり方や、困りごとに関する提案やポイントを共有します。 ・セルフプランの方には利用計画のコーディネートの中核を担う事業所の開催する会議に参画し、情報共有を行います。		職員の質の向上	プロッサムグループ本部にて下記研修実施 ・スタッフ研修 ・専門職員によるスキルアップ研修 ・保育士研修 ・身体拘束適正化研修 ・感染予防対策研修 その他 児発育ミーティングにて他教室との情報・意見交換実施				
主な行事等	・季節の行事 ・近隣施設や公園への外出活動							